

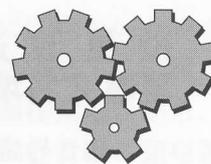
NPO法人

北九州TSニュース

Kitakyushu Techno-Support

2006

8



通巻7号 / 平成18年8月10日発行
発行/NPO法人 北九州テクノサポート
・発行人 秦吉昭・編集人 三上亨
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル1F
〒804-0003 Tel/Fax093-873-1453

各機関と連携 モノづくり支援を強化

第4回通常総会 18年度計画を決定

特定非営利活動法人・北九州テクノサポート(以下、KTSと略称)では、6月8日(木)、北九州市戸畑区・北九州テクノセンター1Fホールで、第4回通常総会を開催しました。

当日行事は次のとおり

1. 通常総会 14:30~15:50
2. 記念講演 16:00~17:20
3. 交流懇親会 17:30~18:50

の3部構成で行われました。

当日の司会には小野晃一理事が当たり、正会員72名中、本人出席37名、委任出席14名、計51名の出席で総会が適法に成立した旨を告げ開会、その冒頭に秦吉昭会長が挨拶の後、推されて議長となり、議事に入りました。

第1号議案 平成17年度(第3期)事業報告及び収支決算承認の件

事業報告・仲隆喜副会長、収支決算報告・米沢昌理事・事務局長より報告説明、続いて増田幸一監事の監査報告があつて後、全会一致で可決承認。

第2号議案 平成18年度(第4期)事業計画及び収支予算決定並びに入会金、会費の件

事業計画案・小川勝副会長、収支予算案及び入会金・会費の件・米沢昌理事・事務局長より提案説明、全会一致で原案どおり可決決定。

☆18年度基本方針〈要旨〉

我々は「モノづくり支援を通じて産業振興を図り、まちづくりに貢献する」を理念とし、企業及び行政・公的機関、大学・高専等と連携を密にして、ニーズに即応した支援協力・派遣・調査、研



18.6.8 第4回通常総会(北九州テクノセンターホール)

究会等を通じ、プロモーターとして役割を果たす。

1. エコアクション21の認証支援 ISO認証取得及び環境産業政策への全面的な支援協力
2. 北部九州自動車150万台生産拠点化構想の一端として「金属プレス成形金型産学連携研究会」の本格的な実践研究の推進による成果実現
3. 既存分野をベースに、自動車関連産業情報の提供、企業のIT化に関する現場に即した活動によるモノづくり支援の強化
4. 現在進行中の北九州産業技術保存継承センター(前北九州産業技術博物館)の企画への積極的協力
5. 各活動を通じてのニーズ・情報の収集による中小企業への実効ある支援協力の推進
6. 北九州市周辺の自治体及び中小企業への本法人活動のPRと波及推進
7. 新規会員の加入促進(特に60歳前後)

役員改選で機能強化 理事2名増(新任3、退任1)

続いて、第3号議案 役員改選の件では、米沢昌事務局長より選考委員会で協議の素案が提案され、全会一致で原案どおり可決決定されました。

〈理事〉

(再 任)

秦 吉昭、小川 勝、米沢 昌、三上 亨、
石川 浩、安東 静、小野晃一、後藤禎二、
島谷哲雄、鳥越年高、重藤将美

(新 任)

尾形昌彦、小林敏郎、竜口康文

〈監事〉

増田幸一 (再任)

前理事数は12名でしたが、事業の拡充強化を図るため2名増員して14名となりました。

新任の尾形昌彦、小林敏郎の両氏は新日鉄OB、竜口康文氏は元・福岡県機械電子研究所所長であり、その豊富な知識経験による活動が期待されます。

なお永年にわたり理事・副会長として貢献されてきた仲 隆喜氏は、一身上のご事情により今回退任されました。ご苦労様でした。今後のご健勝をお祈りします。



総会ご挨拶

NPO法人 北九州テクノサポート

会長 秦 吉 昭

総会開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、多数のご来賓及び会員皆様のご出席を頂き、厚く御礼申しあげます。

最近の各業界は、活況が続いていると報道されています。一方、地球温暖化問題や原油高、原料の高騰、人材不足やミスマッチ等が直撃しており、先行きには予断を許さないものがあります。

このような状況下、当法人は4年目を迎えることになりました。「石の上にも3年」と申しますが、軌道に乗せるべく日々研鑽を続けています。

お陰様で、企業や行政及び各関係機関等の方々のご理解を頂き、また会員皆様のご努力により、平

続いて第2部の記念講演は、「チャイナファクターとチャイナリスク」のテーマで、西南学院大学の立石揚志教授により行われました。1時間20分にわたって行われたお話の要旨は、4、5頁にわたって掲載されています。ご高覧下さい。

第4部の懇親交流会は、同じく1F隣室のレストランに席を移し、参会者の多くが引き続いて出席、和やかな歓談のうちに交流の輪を上げ、盛況裡に幕を閉じました。

○ 出席ご来賓 (順不同・敬称略)

〈行政機関〉(福岡県)井本誠二(新産業・新技術振興課技術課長補佐、商工部長代理)(北九州市)窪田秀樹(地域産業部長)、鮎川典明(地域産業課長)、伊崎晴朗(中小企業振興課長)

〈関係機関・団体〉(財)北九州産業学術推進機構)阿南惟正(理事長)、西野英明(専務理事)、小出勝敏(中小企業センター長)、佐藤勉(財)北九州テクノセンター専務理事)田邊廣志(財)九州機械工業振興会専務理事)、浦部秀雄(福岡県中小企業団体中央会北九州支所次長)、杉永浩一(財)福岡県機械金属工業連合会プロダクションコーディネーター)、片山峯雄(北九州商工会議所中小企業振興課長)、安河内喆丸(財)北九州中小企業団体連合会専務理事)

成17年度は「エコアクション21」の先行費用の発生がありました。ほぼ所期の目標を達成することが出来ました。またIT技術による「コミュニティビジネス事業化支援」では工業団地出前講習等を行い、さらに自動車産業の一端を支える「金属プレス成形金型産学連携研究会」の継続活動や「環境に関わる協力事業」、「北九州産業技術保存継承センター」への協力、「ISO認証取得支援」、「FAIS、TLOや中小企業支援・協力」、「企業や大学等への派遣・協力」等活発な活動となりました。

本年度は、昨年度事業の継続をベースに推進しますが、「エコアクション21地域事務局福岡」の業務が軌道に乗り、その業務も、福岡、佐賀、大分、

ご来賓代表祝辞〈要旨〉



福岡県新産業・新技術振興課
技術課長補佐 **井本 誠二**
(商工部長代理)

本日総会のご盛会を心よりお喜び申し上げます。
また、貴会の本県産業振興へのご尽力に、厚く御礼申し上げます。

貴会は、平成15年にNPO法人として新しくスタートされて3年を経過、この間、産学連携、技術移転支援、相談員・専門家派遣等意欲的に取り組んでこられました。これも偏えに会長はじめ会員皆様のご尽力の賜と深く敬意を表します。

今後とも、これまでに培われた豊富な経験と幅広い人脈を活かし、行政はもとより大学や中小企業との連携をさらに深められ、より一層の活動を展開されるよう心より期待します。

県といたしましても、産学協力による技術開発支援、販路開拓の指導支援、資金面支援等、経営革新や新分野進出等施策を推進しています。

中でも、北部九州自動車100万台生産拠点プロジェクトは、日産、トヨタの好調により目標の突破は確実、これにより関連産業の集積と雇用の創出に大きな効果が生まれています。今後は、新たな生産目標150万台、部品地元調達比率70%を目指し、地元企業の自動車関連産業参入を積極支援してまいります。

これらものづくり産業の振興は、16年7月に設立した「福岡ものづくり産業振興会議」を通じ、県内企業の生産向上、技術・技能継承等を強力に推進していく所存であり、今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

(部長祝辞代読)



(財)北九州産業学術推進機構
理事長 **阿南 惟正**

貴会におかれては、設立以来、地域企業支援や産学連携のコーディネート活動等に幅広く活躍され、北九州の産業振興に大いに貢献されました。

特に平成15年にNPO法人化されてからは、「金属プレス成形金型産学連携研究会」の発足や、県内唯一の「エコアクション21地域事務局」としての審査業務等、より広汎で活発な活動を展開、私ども財団の中小企業支援センターでも、貴会の方々に、その豊富な知識経験を活かし、窓口相談

や専門家派遣の事業にご活躍頂いています。

この窓口相談は過去最高の900件を突破、昨年度から開始した日曜創業相談で27社が新規開業、さらに優れた技術等を持ち販路拡大に積極的な企業の支援では、18社が計5億円の売上げ増加に繋がるなど、確実な成果を挙げています。

本財団の拠点である学術研究都市も丸5年を迎え、学生数は2,150名、進出企業は現在37社にまで増加しました。これからは、さらに産学官のネットワークづくりを強化し、地域振興に貢献していく所存であり、今日お集まりの皆様方のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、貴会皆様方の今後ますますのご活躍ご発展を祈念、ご挨拶といたします。

山口各県の地域にまで広域化したものとなります。さらに普及やコンサルティング、セミナー活動も積極的に行って企業の環境経営を支援し、環境問題取り組みへの一助にしたいと思います。

また、北部九州の自動車産業150万台生産拠点構想も着実に進展しており、これらの関連部品地場調達率50%から70%へと官民あげての取り組みが提唱されています。

我々は、「ものづくりの支援・協力を通じて産業振興を図りまちづくりに貢献する」を理念として、

既存技術の支援は勿論、先進分野においても企業や行政・公的機関、大学等と連携しながら、いささかでもお役に立ちたいと思っています。

これに関連して、我々の活動に参加して頂く人材を広く求めていますので、ご紹介頂きますようこの席を借りてお願いいたします。

本日は、総会議事に続いて、西南学院大学の立石揚志先生に記念講演をお願いしました。ご清聴下さいますよう併せてお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

〈記念講演要旨〉 チャイナファクターとチャイナリスク

—世界のビジネス舞台となった
中国での事業展開—

西南学院大学教授 立石 揚志氏

〈記念講演要旨〉



1. 現在の中国をどう見るか

「中国」といっても一つではない。「平均的中国」とか「平均的中国人」は存在しない。それ程変化し、多様化している。地域でも、階層でも、都市と農村でも。

同地域でも、例えば上海では、浦東開発区と浦西地区（旧市街）では、全く違う話になる。

都市と農村では全く異なるが、同じ農村でも、激変した所とほとんど変わってない所もある。

中国は、かつては労働者と農民が主体で階層の無い国だと言われていた。が今は、完全な階層社会になりつつある。普通の労働者は主人公でなくなってきているし、農村・農民は、すばらしく成功した所・人とそうでない所・人の階層に分かれてきている。

従って、特にビジネスとなると、どこを相手にするか、どの地域の人を相手にするのかということが、いちばん大切になってくる。

それと、日本のいつの時代に相当するかとよく聞かれるのだが、どの切り口で比較するかで全く違ってくる。

工業水準や消費水準は日本の70年代的なところもあるが、携帯電話保有数のように日本を超えているものもある。時代が並存・混在するのが現実の姿である。

“上海、北京から世界が見える”と言われる。そ

れ程に外資が進出している。中国生産の全世界に占めるシェアは、急速にアップしている。（下表参照）同じ高度成長でも、日本と決定的に違うのは、外国の企業や技術や文化が一斉に国内に進出して競い合っているところだ。

☆主要電子機器の世界生産に占める中国の生産(2004年)

種別	品名	世界の生産量(万台)	中国の生産量(万台)	中国生産シェア(%)
A V	カラーテレビ(CRT)	15,990	5,880	37%
	カラーテレビ(液晶)	793	181	23%
	カラーテレビ(PDP)	228	49	21%
	V T R	1,695	510	30%
	ステレオ	4,760	2,900	61%
	ポータブルオーディオ	5,723	3,800	66%
	D V Dプレイヤー	6,293	5,130	82%
	D V Dレコーダー	911	374	41%
家電	冷蔵庫	6,270	2,300	37%
	洗濯機	6,230	2,130	34%
	エアコン	5,470	3,250	59%
	掃除機	5,905	750	13%
	電子レンジ	7,945	4,430	56%
通信・ネットワーク	携帯端末	69,580	22,900	33%
	デスクトップパソコン	11,860	3,110	26%
	ノート型パソコン	4,740	1,880	40%
	ファクシミリ	1,792	479	27%

出所) データラインリサーチネットワーク株式会社「2005年版電子機器業界の生産動向と今後」他

◇講師プロフィール

- S. 42. 3 東京外国語大学中国科卒
- 4 丸紅(株)入社
- 56. 4 同・海外営業統括部中国第一課長
- 58. 4 同・国際業務部アジア室室長補佐
- 61. 4 同・大連支店長兼瀋陽出張所長
- H. 4. 4 (株)アジアビジネスセンター常務取締役
- 6. 4 西南学院大学商学部助教授

10. 4 同・教授

——九州大学、北九州市立大、福岡国際大学の非常勤講師

- 社会活動 H. 5～中小企業基盤整備機構国際化支援アドバイザー、(財)福岡県中小企業振興センター等に所属し活躍中。
- 学会関係 H. 7～アジア経済研究所専門員、中国社会科学院、中日経済研究センター特別高級研究員、日中関係学会理事、東アジア学会理事等々。

従って今は、チャイナファクターということを考えずには、経済活動をすることが不可能になった、中国への好き嫌いに関係なく。

中国進出では、向こうで安く作ってこちらに持ってくるというパターンがあった。しかし、これは今では主流でなくなっている。

今や中国は、「世界の工場」から「世界最大の市場」そして「世界の人材集積地」となっている。それだけに、反面のチャイナリスクも、大きな意味で出てきている。問題を挙げればキリがない。石油、電力、水資源、環境、一党支配等々。

現在ガブ飲み状態の石油だが、中国のトップはグローバルな戦略的資源外交を展開している。その一方で、思い切った省エネ対策も打ち出している。電力不足は、失敗を軌道修正して急速に改善している。最大に難しいのは水資源対策だ。

いずれにせよ我々としては、ファクターとリスクを常に認識しながら、つき合わざるを得ない相手であって、無視するわけにはいかない。

2. ビジネスパートナーとしての中国

2004年に、対中貿易額が対米額を上回った。様変わりしたこの傾向は、今後も続くだろう。

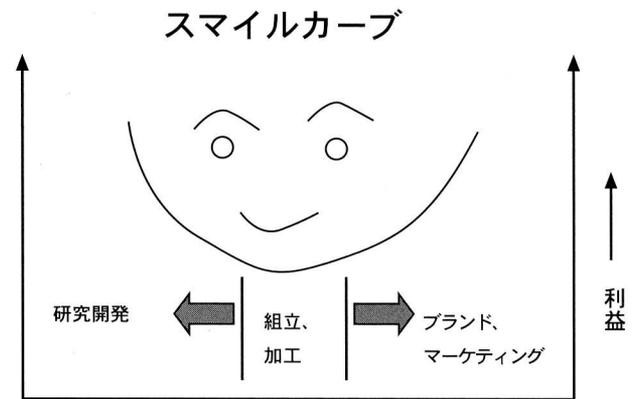
この流れの中で、一時期強かった中国脅威論はあまり聞かなくなり、むしろ活用論が当たり前になってきた。中国でも、日本活用論が大勢だ。

最近、中国は人件費コストも上り、場所によっては人手も集まらないところもある。反日感情も煩わしいし、これからはベトナムやタイだという「中国離れ論」が一部に出ている。しかし、これは短絡的な見方で、実態をよく見ると軸足は中国にかかっている。中国自体も周辺諸国とのカラミを見ると、中国ファクターの拡がり止めどもなく大きくなっている。だから、リスクも当然に考えざるを得ないが、リスクマネジメントをどうするかは個別の課題として対処が必要と なってこよう。

3. 向上目指す中国の技術水準

中国の国有企業は非効率で遅れているというイメージがあると思う。しかし、この20年、競争の試練に鍛え抜かれて現在残っている所はそうも言えない。

これに対比される民間企業（かつては郷鎮企業と呼ばれていたが今はあまり使われてない）、この頃は中小企業という言葉もよく使われるが、この中国企業の最近の動向をみると、



- 日本企業について、80、90年代には常に先進的だという見方だったが、最近そうでもなくなってきた。日本的経営は意志決定が遅いという見方もある。また、これは近隣や欧米も含めてだが、今や中国の企業家あるいはビジネスマンが外国企業を選ぶ時代に移りつつある。
- 中国生産の上昇といっても、中味は組み立てが多く、高度な加工はまだ少ない。
組み立て加工型から「自主创新」へ、スマイルカーブの底辺から脱出、外国ブランドの下請生産から「自主ブランド」の確立へという意識が高まりつつある。
- 研究開発やブランド、マーケティング等の自主创新については、政府も完全バックアップしている。チョンカンソン 中 関村（西華大学、北京大学、研究所が密集している）、この研究開発のメッカは、今やシリコンバレーより勢いがあるとアメリカ人が言っている程だ。
- 日本の技術は、セットメーカーより中小企業にあるという認識が拡がりつつある。日本の中小企業のコア技術が注目され、提携を求める気運が高まりつつある。

4. 日中韓運命共同体へ

これだけ経済が密着してきた日本・中国は、自由貿易協定（FTA）を結ぶべきだ。韓国とは昨年政治結着のはずが、「靖国問題」で壊れた。

中国と日本、これに韓国、台湾を加えて、経済は運命共同体の領域に入りつつある。

経済界の人間は、このことを肌で感じている。先の経済同友会提言は、単に「靖国問題」だけでなく、この課題について指摘している。

本記事は、紙数の制約から講演の一部をかなり圧縮又は割愛しています。ご了承下さい。詳細を知りたい方は、事務局にご連絡下さい。

K T S の動き

秦会長再任 副会長 3 名へ 改選後初理事会で選任

K T S では、7 月 4 日（火）10 時 10 分より、北九州テクノセンター 4 F 会議室で、通常総会後初理事会を開催しました。

この会議では、冒頭に総会で改選された理事による会長、副会長の選任が行われました。

まず会長の選任では、秦吉昭氏が全会一致で選任されました。副会長の選任では、秦会長から、“K T S の活動の拡充強化を図るため、従来 2 名の副会長を 3 名に増員したい”旨の提案があり、これを承認後、会長から 3 候補の推薦を受け、全会一致でこれを承認しました。

これで新 3 役による執行部体制は、次のとおりとなりました。

会長 秦 吉昭（再任）
副会長 小川 勝（ ” ）
” 石川 浩（新任・理事は再任）
” 小野晃一（ ” ・ ” ）
事務局長 米澤 昌（再任）
新役員名簿は右表のとおりです。

◇新役員名簿

役職	氏名	再・新	備 考
会 長	秦 吉昭	再任	
副会長	小川 勝	”	I S O ・ E A 21 支援部会長
”	石川 浩	新任	産学連携支援部会長
”	小野 晃一	”	技術・経営支援部会長
理 事	米澤 昌	再任	事務局長
”	三上 亨	”	広報部会長
”	安東 静	”	I T 支援部会長
”	島谷 哲雄	”	E C O 支援部会長
”	後藤 禎二	”	
”	島越 年高	”	
”	重藤 将美	”	
”	尾形 昌彦	新任	
”	小林 敏郎	”	
”	竜口 康文	”	
監 事	増田 幸一	再任	

K T S では、発足以来毎月 1 回（原則として第 1 週火曜日）を定例理事会として、運営方針の審議を行っています。

当日も、新 3 役選任後は、各支援部会の報告と今後の活動方針を中心に審議し、12 時過ぎ閉会しました。

18年度予算・手堅く編成

第 4 回通常総会で可決決定された平成 18 年度収支予算(抄)を、16・17 年度実績と対比すれば、右表のとおりです。

18 年度予算は、この 17 年度実績をベースに、収支ともに手堅く着実な漸増を見込んで編成しています。

収入の大きな柱は、(1)地域の企業・組織支援と(3)国際規格認証取得支援です。

県、市、関係機関・団体及び中小企業への知名度と信用のアップにより、各事業とも予算を上回る実績の伸長を目指しています。しかし、事業経費・管理費については、まだ役員・部会員のボランティア協力に負うところを残し、健全収支を図っています。

○18年度収支予算(抄)

(単位 千円)

科 目	18年度予算	17年度実績	16年度実績
1. 事業収入	(10,951)	(9,810)	(11,653)
(1)地域の企業・組織支援	5,901	5,826	6,282
(2)環境保全技術開発支援	350	844	847
(3)国際規格認証取得支援	4,460	2,950	4,324
(4)情報発信事業	240	190	200
2. 入会金・会費	350	390	385
3. 寄付金	300	396	323
4. 雑収入	0	0	1
収入合計	11,601	10,596	12,362
1. 事業経費（各支援事業費）	9,931	9,684	10,337
2. 管理費（旅費交通費ほか）	1,655	1,727	1,037
支出合計	11,586	11,411	11,374
収支差額	15	△815	988
収益事業損益	0	0	0
当期収支	15	△815	988
前期繰越高	675	1,490	502
次期繰越高	690	675	1,490

☆部会活動概況

K T S では、発足以来、支援部会活動を中核に事業推進を図っています。

その活動により、県・市をはじめ関係機関・団体や企業等に K T S の存在がしだいに浸透、事業委託や相談件数が拡がってきました。最近における部会活動の主なものを挙げてみます。

○技術・経営支援部会（小野晃一部会長）

・技術支援（1月～3月）

八幡西区の M 社へ当会員をアドバイザーとして派遣、製造プロセスについて助言。

・「北九州産業技術保存継承センター」開設準備作業へ協力（2月～8月）

(1)北九州イノベーションクロニクル作成協力

・北九州産業技術史年表項目作成

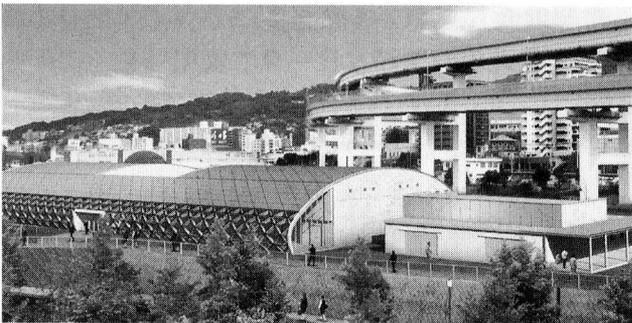
世界、日本、北九州の主な技術関連年表を作成、合計で約1,000項目を抽出、うち北九州の技術項目について作成協力

・情報ライブラリー端末閲覧用データ作成 本文作成及び音声ガイドの原稿作成協力

(2)北九州の企業データベース作成協力

追加調査企業 40社

会員13名 会員外協力者6名



北九州産業技術保存継承センター

・九州工業大学へ協力員派遣

コーディネーター3名派遣

○産学連携支援部会（石川浩部会長）

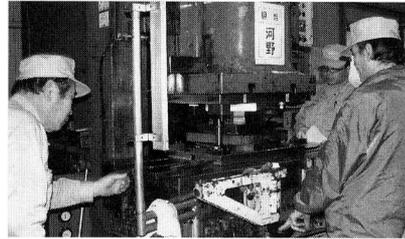
・「金属プレス成形金型産学連携研究会」活動

「福岡ものづくり産業振興会議」の事業として一昨年（H16年）7月に発足した研究会も、本年度は3年目（最終年度）を迎え、ますます企業ニーズに密着した活動を推進中。

特に主な活動として

(1)試作金型による現場プレス実験と「絞り金型設計講座」の合同実施

会員企業8社をはじめ新日鉄株八幡技研等、

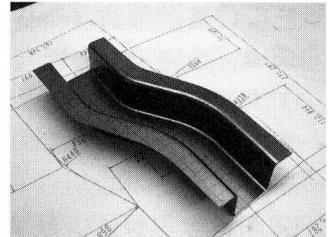


22名の参加を得て、解析結果との実証実験を実施。K T S からも秦会長以下4名参加。

日時：平成18. 1. 17 14:00～17:30

場所：松野プレス工業株本社工場（直方市）

実験内容：ハイテン材のスプリングバックを主要テーマとして「フランジ付きS型チャンネル（右図）のプレス製作実験を行い、解析結果との実証検証を実施。



(2)平成17年度（2年目）公開成果報告会開催

本研究会活動の成果報告及び下記特別講演会を開催、47名が参加、引き続いての交流懇親会には26名が出席。

日時：平成18年3月27日（月）13:30～17:30

場所：学研都市産学連携センター2F研修室

特別講演：「自動車生産における軽量化の切り札、スプリングバックレス・ホットプレス技術の研究開発動向について」

講師：岡山大学工学部 瀬沼武秀教授（元新日鉄株研究部長）

・企業の新商品開発（T L O 支援活動）の推進

北九州地域の中小企業者向けに、「北九州 T L O が保有する技術」（未公開特許情報）の紹介を実施中。

内容：北九州地域の大学（大学7校と高専1校）、九州地域の大学並びに山口大学、広島大学、東京農大等の先生方の研究成果を特許化した技術シーズ。

目的：企業の継続的発展には、営業・販売力に加えて技術開発・商品開発力が不可欠。しかしその開発には多額の費用と知恵と時間を要する。この課題を、大学からの研究成果を利用するこ

とにより、安く・早く・良い・安全な新製品・新商品の産出を目指す。

※ KTSでは、「TLOの技術シーズ」を企業へ紹介するためのプロジェクトチームをつくり、ライセンス活動をしています。積極的にご活用下さい。その実績は次のとおり。

16年度 44社に技術シーズ案件を紹介済み。

17年度 31社に技術シーズ案件を紹介済み。

18年度 50社目標にマッチング案件計画中。

○ECO支援部会（島谷哲雄部会長）

・環境行政施策への協力活動

(1)講演会「自動車部品産業に求められる生産管理とは」へ講師1名派遣（北九州市中小企業振興課より受託）

(2)エコテック2005展でマッチング・コーディネート活動へ協力 延べ13名

・専門技術等を活用した活動

山口大学環境技術PR・企業訪問、訪問企業数107社（同大学地域共同研究センターより受託）。

○ISO・EA21支援部会（小川 勝部会長）

・企業支援及び普及活動

(1)ISO14001構築支援及び内部環境監査員研修各1社実施。

(2)エコアクション21普及セミナー実施
4回にわたり講師派遣

(3)北九州市の委託によるEA21実践講座(後期)を実施。



・関係機関・団体に対する渉外活動

(1)北九州市、佐賀市、飯塚市、下関市の環境部門と、自治体イニシアチブプログラムに関する打ち合わせ協議。

(2)北九州市環境局に、EA21実践講座の本年度開催について見積書を提出。

(3)EA21中央事務局に、第2回EA21全国大会の招聘に関する聞き取り調査実施。

・EA21地域事務局福岡

(1)18. 1月～7月まで判定委員会を毎月1回開催。

新規審査合格数 16社。中間審査 20社。

(2)飯塚市と自治体イニシアチブプログラム参加について打合わせ中。

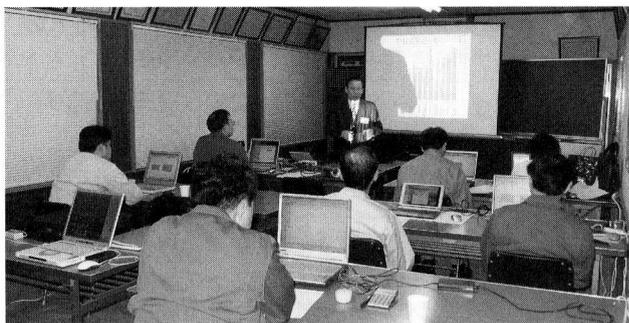
(3)「EA21産業廃棄物処理事業者向けマニュアル」に関する講習会に参加（5.13 東京）

(4)地域判定委員会の北森委員が、5月30日付で一身上の都合により辞任。後任には、箱田輝巳氏が就任。

○IT支援部会（安東 静部会長）

・コミュニティビジネス事業支援事業

受託事業の最終活動として、小倉鉄工団地(協)で、パソコン講座を開催。



・IT支援活動

(1)インターネットによる広報

KTSのHP企画・製作、管理等を実施。

(2)IT支援事業を随時実施。

○広報部会（三上 亨部会長）

・「会報北九州T Sニュース」夏期号を、12頁立て（16年・8P、17年・10P）で1200部発行。

☆入会のご案内

KTS会員の種別と入会条件は、次のとおりとなっています。（定款第6、7条）

(1)正会員 この法人の目的に賛同し、この法人の行う事業のいずれかについて技能、技術及び経営に関する学識・経験を提供し、活動に積極的に参加することが出来るシニア世代の個人

(2)賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動に協力することが出来る個人及び団体。

入会金及び会費

①正会員 入会金 5,000円、年会費 5,000円

②賛助会員（個人）

入会金 5,000円、年会費一口 5,000円

③賛助会員（団体）

入会金 10,000円、年会費一口 10,000円

関係各位の入会方を希望し、歓迎します。



エコアクション21 (中小企業向け環境経営システム) ～ 最近の動向 ～

1. 地域事務局福岡の業務

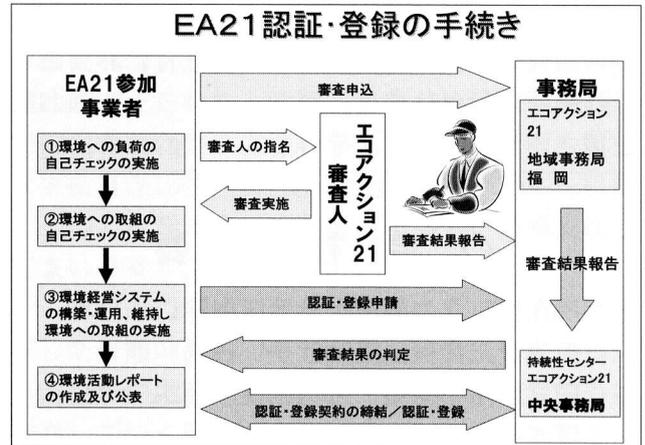
環境省のエコアクション21認証・登録制度に係る地域事務局福岡は、運営母体のNPO法人北九州テクノサポートの一部門として位置付けされており、ISO・エコアクション21支援部会に所属しているエコアクション21審査人(6名)の協力と支援を受けながら、エコアクション21中央事務局(IGES)によるエコアクション21の普及に向けた動きに呼応し、相互に連携した活動を展開しています。

地域事務局福岡は、認証・登録業務については審査の申込受付、審査人・コンサルタント斡旋紹介、地域判定委員会による認証・登録可否判定、中央事務局への報告、中間審査及び更新審査への案内等認証登録に関する一連の業務を行っています。またエコアクション21普及活動業務としてセミナーの開催、自治体イニシアティブ・プログラム(市町村と共同で中小事業者に集合コンサルを実施し、エコアクション21認証取得への支援を行う制度)等を実施しています。

2. 地域事務局福岡の活動状況

地域事務局福岡の活動範囲は、福岡県全域をカバーしていることは勿論のこと、地域事務局がまだ設置されていない近隣の県である佐賀県、大分県、山口県をカバーしており、認証・登録事業者数では東京、大阪と肩を並べるほどの実績を挙げています。

活動の成果として、認証・登録事業者数は7月末現在で44社(全国881社)シェア5%、ちなみに福岡県38社、大分3社、佐賀3社となっています。



IGESによれば全国のエコアクション21認証登録事業者数は今年度前期にも1,000社を突破する勢いで、毎月申請が受付されている状況にあります。

さらに「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」が平成17年4月に施行され、この評価基準に適合する処理業者(エコアクション21の認証取得が条件)に対して優遇措置を講じることが実施されるようになり、にわかにエコアクション21認証登録が脚光を浴びるようになりました。

平成18年度は特にIGESの奨める自治体イニシアティブ・プログラム参加自治体の支援を展開し、更なる認証登録件数の向上を目指した活動を展開して行きます。

また、今後北九州市をはじめ関係機関、関連団体と協力し普及啓発などの活動を展開し、市内事業者の認証登録に向けて更なる浸透を図って行く活動を推進して行きます。

〈エコアクション21〉とは

主に中小企業を対象とした環境経営システムで、環境省が策定したものです。その内容は、簡易な環境経営システムを構築し、二酸化炭素・廃棄物等資源の削減に取り組み、その状況を環境活動レポートとして取り纏めて公表するものです。審査人による審査を経て、認証・登録によって環境経営の証明が得られる仕組みで、要する経費はISO14001認証取得の10分の1程度です。現在、グリーン購入の進展動向もあり、急速に普及しつつあります。

◆ 事業所めぐり

古場 KOBAYASHI PRINTING COMPANY
印刷株式会社

今回は、5回目の事業所めぐりです。7月12日(水)11時、小川勝副会長と三上理事・広報部会長の2人で本社を訪問、古場則光社長にお会いし、1時間半にわたり懇切、かつ、フレッシュなお話を頂きました。以下、その要約です。

◇ 会社概要

- 所在地 北九州市小倉北区中津口1-1-32
- 代表者 代表取締役社長 古場 則光
- 設立 昭和56年7月(創業:昭24.6月)
- 資本金 2,000万円
- 従業員 47名(うち、正社員40名)
- 営業内容 〈仕組みづくり専門印刷会社〉
 - ・広告の企画制作
 - ・販促用及び各種印刷物に関する企画・制作
 - ・ホームページ企画・制作
 - ・シール・ラベル等特殊印刷
 - ・サインボード・看板・屋外広告
 - ・高級美術印刷 ・書籍印刷

○会社の沿革と業況

当社の設立は昭和56年7月、先代尊父が昭和24年に個人創業、44年に法人化した有限会社古場印刷の営業部門担当会社として発足した。

古場社長は59年12月に先代に代って代表取締役社長に就任、まだ30歳の青年であった。先代は、翌60年2月に逝去されており、大学卒業後、東京で2年半、先輩の伝手で入った印刷会社での営業経験しか無かった社長にとっては苦難のスタートであったと思われる。事実、社長引き継ぎ時に28人いた社員が、1年半の間に24人も辞めるという苦況に見舞われている。

元々内気で人前で喋るのが苦痛だったという社長は、当時の加山雄三の「若大将」の格好良さも生来の性格とは異なる「演技」かもしれぬと憶測、「一流の営業マン」をイメージして演技と割り切ることで、変わり難い性格を封じ込んで営業回りに汗を流したという。

以来22年、時代ニーズを先取りして果敢な新規開



毎週月曜日の全体朝礼での環境や経営に関する勉強会風景
拓にチャレンジ、その取り組みが功を奏し、当社の業績は飛躍発展をみた。その主な軌跡を辿ると、

- S. 63. 9 古場印刷株が、有限会社を吸収合併
- H. 2. 10 資本金2,000万円に増資
- 7. 5 本社新社屋竣工
- 6 フルデジタル化を目指しDTP設備、4色機を導入し、カラー印刷を内製化
- 8. 11 ユニオンスクエアをオープン
- 10. 10 デジタルプリント機DocuTech導入
- 12. 4 CTP(コンピューター・トウー・プレート)を導入
- 10 デジタルプリント機Color Docu Techを導入 ISO9002取得
- 15. 7 ISO9001に更新
- 11 環境省「環境活動評価プログラム」参加企業として登録

デジタル化が大きな転機

古場社長の言によれば、以上のプロセスの中で飛躍の転機となったのは、印刷業のデジタル化の訪れだったという。

引き継ぎ当時の同社は、帳票類主体の在来型でシンプルな印刷所だった。これも商売の“米”として大切にしつつ、カラー印刷へのシフトを考えたが設備がない、この分野で先行してその設備に巨額の資金を投じている所には追いつき難い。そこで、そこらに外注で出していく方法で始めた。

そのうちに時代が変わった。デジタル化の到来である。この新分野なら、今から取り組んでもナンバーワンになれると一念発起、Macintosh 1台を購入、これを女子社員に習得させ、次いで他のスタッフ3人に伝授させ、一気にフルデジタル化を目論んだが、設備を入れる場所がない。そこで平成7年5月、本社社屋を新築、デジタル設備を一括に入れ、カラー印刷4色機も導入した。その

翌年には、アンテナショップ「ユニオンスクエア」もオープンしたが、その当時は東京からも見学に来たという。

これで業績も一挙に上昇したが、カラー印刷に巨額な投資をしている所では、さらにデジタル投資にもは踏み切れなかったのが幸いした側面もあるようである。

○今後の展望と目標

感謝と感動される仕事をしよう。

感謝と感動される会社になろう。

これが同社の経営理念である。

古場社長の業界に対する先行き展望は厳しい。

わが国印刷業界は、従業員9名以下が75%、29名以下が94.5%、総需要が今後増える見通しはない。印刷という紙媒体が急伸するインターネットとどう融合し、繋がりを持っていくかという新たな課題の抬頭の指摘もあった。

これからの会社方針は、単に印刷という物を売^{ぶつ}るのではなく、お客のニーズに応じてその原点から一緒になって取り組む「企画提案型」から、これをさらに発展させて“顧客・経営者の知恵とアイデアのパートナー”として、また、シンクタンクになりたいという高グレードのものである。

“ソフトで生きよう”というこの目標実現には会社の内部人材の教育とそれによる能力アップが不可欠である。その視点に立って、内部研さんが徹底して行われている。その一例が、各課単位を一つの会社として見立てて、社長以下役職をつけそれぞれの会社の経営計画を策定させるシュミレーションが行われている。

今回のE A21の認証取得も、この組織の「環境委員会」での討議がベースになったという。

我われは、この取材を通じて、多くの示唆と感銘を受けた会社めぐりとなった次第である。

http://www.npo-kts.org/
E-mail: npo-kts@npo-kts.org
どんどんアクセス願います

KTSのホームページ及びEメールのアドレスは、上記のとおりです。この企画、運用、管理の担当はIT支援部会ですが、その内容については常に刷新充実に努めています。

この努力で、最近ではアクセス回数が増えつつあります。しかし、管内中小企業の総数からみれば、まだホンの一部です。

ぜひクチコミでもお知らせにPR頂き、アクセスの増加にご支援ご協力下さい。

編集 後記

北九州T S ニュース第7号・夏期号をお届けします。T・S会ニュースから通算すれば第20号になります。

法人化後4年目に入りましたが、しだいに拡充強化されてきた事業内容から、本夏期号では、昨年の10頁から12頁に増やしました。

ご協賛ご協力頂いた関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後一層のご指導ご支援方お願いいたします。

(T・M)

暑中お見舞い申し上げます

古場印刷は地球環境保全のための活動に取り組んでいます。

 **古場印刷株式会社**
KOBAPRINTING COMPANY

販売促進企画からデザイン製作・印刷・製本までトータルシステムを確立し、お客様を全面的にバックアップ致します。



本社・工場 〒802-0018 北九州市小倉北区中津口1丁目1-32
Tel 093-521-3071 Fax 093-551-3300
福岡営業所 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目17-27-212
Tel 092-482-4583 Fax 092-414-9772

URL <http://www.unionsquare.co.jp> E-mail koffice@sweet.ocn.ne.jp

異業種間交流の推進

マネジメントの研究 指導診断・事務代行
会報・年史等の作成 国際交流の輪の拡大

協同組合 **北九州中小企業経営センター**

理事長 **三上 亨**
〒802-0077
北九州市小倉北区馬借1丁目10番2号
日之出ビル2階
電話 (093)531-8315
FAX (093)531-0757

暑中お見舞い申し上げます



より精密により高品質に！

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・
確実なレスポンスをモットーに、独自の
技術開発力を武器にダイナミックな展開
をしています。

大光炉材株式会社 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1
新素材開発部（ファインセラミックス）
http://www.taiko-ref.com Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

GL PIPE JOINTS 好評です
PAT.2849345 JAPAN

GASKETLESS管継手
パッキンのいらない

新製品賞 '99中小企業 優秀新技術新製品賞
福岡県知事賞 中小企業先端技術展 福岡県知事賞

The Creative Corporation
株式会社 **大創**
福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1
TEL ... (093) 681-7195
FAX ... (093) 681-7196
ご質問・お問い合わせは 専用FAX: (093) 681-7197

自動車用ボディ関係の板金プレス金型設計・製作で
世界をリードする金型専門メーカー

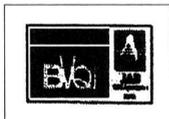
株式会社ウチダ



株式会社 ウチダ

代表取締役社長 内田末男

九州工場 〒823-0011 福岡県宮若市宮田542-38
TEL(0949)33-3145 FAX(0949)33-3146
本社 〒574-0055 大阪府大東市新田本町12-6
TEL(072)874-3377 FAX(072)874-3839
E-mail : imfo@uchidanet.co.jp
URL : <http://www.uchidanet.co.jp>



CAD、CAMの導入・活用、
生産管理のご相談は当社へ！



株式会社 **エーエスエー・システムズ**

代表取締役 麻上俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL (093) 882-0100
FAX (093) 882-0066

事務の省力化を共に考え推める

株式会社 マルヨシ

〒808-0022
北九州市若松区大字安瀬58-3
E-mail : manager@maruyosi.com TEL 093-771-4651
URL : <http://www.maruyosi.com> FAX 093-771-2236

FRPの可能性に挑戦。夢を現実に!!
FRP総合エンジニアリング

詳しいお問い合わせは下記まで、お気軽に連絡下さい。



丸栄化工株式会社

代表取締役 内田 宏一



〒803-0186 北九州市小倉南区大字新道寺910番地
TEL 093-451-0538
FAX 093-451-0583
mkk@maruei-gr.co.jp

わたくしたちは**100才迄死**なせてもらえません。

健康で楽しい生活の為考えている事はありますか？

コロライダル・プラント・ミネラルはあなたの問題を解決します。

御連絡下されば、随筆集「ミネラルのお勉強」をお送りします。

〒800-0211 小倉南区新曾根3-1 **(株)ミツフ製作所** 渡辺 浩 FAX 473-5707